

「海の命」で仲間が考えた疑問を解き明かそう

- ① 海の近くの村に住んでいるのに、どうして太一は海に住んでいたと書かれていたのか。
 - ② 太一は海のどんな表情も好きだと書かれているのに、どうして太一の一族は海の魚をとるのか？
 - ③ 「ぼくは漁師になる。おとうと一緒に。」という夢はかなわなかったのに、どうして太一は漁師になったのか。
 - ④ だれにももぐれない瀬だったのに、どうして父はたった一人でもぐっていたのか。
 - ⑤ もぐり漁師とは何なのか？
 - ⑥ 不漁の日が続いてもどうして父は少しも変わらなかったのか。
- ① 村一番の漁師だったのに、どうして父はクエにうたれたのか。
 - ② 父はすごいもぐり漁師だったのに、どうして父はクエから離れられなかったのか。
 - ③ 村一番の漁師だったのに、どうして父はロープのせいで死んでしまったのか。
 - ④ 太一のように息つきすればよかったのに、どうして父は息つきしなかったのか。
- ① お父さんが死んでしまった漁師という仕事なのに、どうして太一は漁師になろうと思ったのか。
 - ② 父が死に、普通の人だと海がいやになると思うのに、どうして太一は漁師になったのか。
 - ③ お父さんが死んでしまったのに、どうして太一は立ち直れたのか。
 - ④ 今までたくさん魚をとってきたのに、どうして与吉じいさは魚を海で遊ばせなくなったのか。
 - ⑤ 本当にクエをとりたいのであれば、小イワシではないはずなのに、どうして太一は与吉じいさの弟子になったのか。
 - ⑥ 釣りの手伝いをさせてもらはずだったのに、どうして太一はつり糸をにぎらせてもらえなかったのか。
 - ⑦ 千びぎに「一びぎでいい」と言っているのに、どうして与吉じいさは毎日魚を二十びきもとるのか。
 - ⑧ もっとたくさん魚をとったらいいのに、どうして与吉じいさは魚をたくさんとらないのか。
 - ⑨ 「千びぎいるうち、一びぎつればずっとこの海で生きられる」というのはおかしいのではないか。
- ① 太一は村一番の漁師だと与吉じいさは言ったのに、どうして自分では気づけないのか。
 - ② 与吉じいさは海の命の大切さを知っているはずなのに、どうして太一に「こゝはお前の海だ」と言ったのか。
 - ③ 与吉じいさは言っているが、どうして「こゝは太一の海なのか？」
 - ④ 家で死んだはずなのに、どうして与吉じいさの死を海に帰ったと言えるのか。

- ⑤ 与吉じいさは寿命で死んだと言えるのに、どうして「海に帰った」と言えるのか。
- ⑥ 海で生きていただけなのに、どうして亡くなると海に帰ったとなるのか。
- ⑦ 海で生まれたのではないのに、どうして与吉じいさのことを海に帰っていったと思ったのか。
- ⑧ 父が死んでしまった海なのに、どうして太一は海に対して感謝の気持ちを持っているのか。
- ⑨ 「海に帰られた」という表現は、海が原点のような言い方なのに、どうして「海の命」というような「人と海はちがう」というような表現をするのか。
- ⑩ 悲しみがふき上がってきたはずなのに、どうして今の太一は自然な気持ちで手を合わせる事ができたのか。

- ① 「お前がおとうの死んだ瀬にもぐるといつ言い出すかと思うと夜も眠れない」と母に言われているのに、どうして海は太一にとって自由な世界になっていたのか。
- ② くわしく内容は書かれていないのに、太一が母の悲しみを背負おうとしているとは何なのか。

- ① 与吉じいさにお前の海だと言われているのに、どうして太一にとって自由な世界になったと書かれているのか。
- ② 海にも音があるはずなのに、どうして太一には何も聞こえなかったのか。
- ③ 何も聞こえないと書いてあるのに、音楽を聞いているような気分になったのはどうしてか。

- ① アフビやサザエがたくさんあったのに、どうして太一は見逃してそのままにしておいたのか。
- ② 父の時は不漁になったりしたのに、どうして太一が漁師になった時はたくさんアフビやサザエなどがあったのか。
- ③ 太一は一年も瀬にもぐっているのに、どうしてアフビやサザエはたくさんあったのか？
- ④ 父のようになろうと思っていたはずなのに、どうしてクエを見つけても興味を持たなかったのか。
- ⑤ 太一は漁師のはずなのに、どうして二十キロのクエに興味を持たなかったのか。
- ⑥ 父とその父の漁業への信念を守っていたのに、どうして二十キロのクエに太一は興味を持たなかったのか。
- ⑦ どうしてお父さんを苦しめたクエを見かけたのに、太一は興味を持てなかったのか。

- ① それまでは書いてなかったのに、どうしてクエをとることが太一の夢なのか。
- ② どうして夢が実現したのに、叶えようとしなかったのか。
- ③ 父を破った瀬の主の目は緑色だったのに、どうしてクエの目は青に変わっていたのか。

- ④ 緑色の目と書いてあったのに、青い宝石の目になったのは別の魚になったのか。
- ⑤ 緑色の目だったのに、青い宝石の目の黒いしんじゅのひとみは同じものなのか。
- ⑥ 緑色のクエと青い色のクエが同じだとしたとき、どうして目の色は変わっていたのか。
- ⑦ 緑色だったクエの目の色が、緑や赤ではなく青になったのは何を表しているのか。
- ⑧ 水は銀色ではないのに、どうして「銀色にゆれる水面」と書いてあるのか。
- ⑨ 激しい潮の流れの瀬のはずなのに、どうして太一は水が動いているのが分かったのか。
- ⑩ 瀬の主は強いはずなのに、どうして太一は魚がえらを動かすたびに水が動くのが分かったのか。
- ⑪ 岩そのものが魚のように書いてあるが、魚そのものが岩のようではないのか。
- ⑫ 百五十キロもあるクエが本当にいるのか。
- ⑬ 二十キロには興味を持てなかったのに、どうして太一は百五十キロには興味を持てたのか。

9

- ① 興奮していたと書いてあるのに、どうして太一は冷静でもいたのか。
- ② 興奮と冷静は真逆の言葉なのに、どうして太一にはこの二つの気持ちがあったのか。
- ③ どうして太一はクエを見つけた前と後で気持ちが変わったのか。
- ④ クエをうとうともりをつき出したのにどうして太一はもりをささなかつたのか。
- ⑤ 海の中は息が苦しくなってしまうはずなのに、どうして太一は永遠にここにいられるような気がしたのか。
- ⑥ 永遠にここにいられる気がしたのに、息苦しくなって浮かんでしまったのはなぜか。
- ⑦ おだやかな目を見ただけなのに、どうして太一はクエのことを殺されたがっていると感じたのか。
- ⑧ 他の魚に対しては感じなかったのに、どうして瀬の主だけ殺されたがっていると感じたのか。
- ⑨ 自分に殺されたがっている目だと思ったほどだったのに、どうして太一はクエを殺さなかったのか。
- ⑩ クエをとろうと思っていたのに、クエをとらなかつたのは、父のようになるのがこわかつたからなのか。
- ⑪ クエをずっと追い求めてきたはずなのに、どうして太一は瀬の主を殺さなかつたのか。
- ⑫ 最後に見たクエのことを父を殺したと思いきんんでいるのにどうして太一はクエを殺さなかつたのか。
- ⑬ 何回も魚を殺しているはずなのに、どうしてこんな感情になったのは初めてなのか。
- ⑭ この魚をとらなければ一人前になれないと思ったのに、どうして太一はクエを殺さなかつたのか。
- ⑮ どうして太一はクエをとったら一人前になれると思ったのか。
- ⑯ 与吉いさに村一番の漁師だと言われたのに、どうして自分では一人前になつていないと思つているのか。
- ⑰ 本当の一人前の漁師になりたいと思つていたのに、どうして太一はクエにもりをささなかつたのか。
- ⑱ 一人前の漁師になりたいと思つていたのに、どうして太一はクエをとらなかつたのか。

- ⑲ 本当の漁師になりたかつたのに、どうしてクエをとらなかつたのか。

10

- ① 水は透明で空気は白いはずなのに、どうして太一が銀のあぶくを出したとあるのか？
- ② ふつとほえんだ太一は、どうしてもう一度えがおを作つたのか。
- ③ 泣きそうになつていたのに、どうして太一は笑顔を作つたのか。
- ④ 漁師は魚を殺すのに、どうしてクエを殺さなかつたのか。
- ⑤ 漁師になるということは、魚を殺す覚悟があるということなのに、どうして太一はクエを殺さなかつたのか。
- ⑥ クエはクエなのに、どうして太一はクエに自分の父を感じたのか。
- ⑦ おとうは人なのに、どうして巨大なクエをおとうと思つたのか。
- ⑧ 瀬の主は殺されたがっていると感じていたのに、どうして太一は殺さずに「おとう、ここにおられたのですか。」と考えるようになったのか。
- ⑨ 何匹も魚を殺してきているのに、どうして瀬の主はすぐに他の魚と同じように殺せなかつたのか。
- ⑩ 「また会いに来ますから。」とあるが、その後は書いていない。本当に太一は会いに行ったのか。
- ⑪ 何回も魚を殺しているはずなのに、どうして太一は瀬の主のことを海の命だと思えたのか。
- ⑫ 他にも魚はいるはずなのに、どうして瀬の主だけが海の命だと思つたのか。
- ⑬ 本当は殺したかたはずなのに、どうして「こう思うことで殺さずに済んだ」ことに太一は笑顔を作れたのか。
- ⑭ 太一はずっと瀬の主を追い求めていたのに、これからも太一は瀬の主にもりをうたないのか。
- ⑮ こいつを殺せば村一番になれると思つていたのに、どうして「瀬の主を殺さないで済んだ」と気持ちが変わったのか。

11

- ① 太一の母は太一が父のようになるのを恐れていたのに、どうしておだやかな人になつたのか。
- ② クエにもりをささないで一人前ではないと感じていたのに、どうして村一番の漁師であり続けたと言えるのか。
- ③ 本当の一人前の漁師になりたいと思つていたのに、大きなクエをとらなかつたのは太一の気持ちが変わったのか。
- ④ 千びきに「一ぴきといつても、一ぴきとっているのに、どうして海の命は変わらなかつたのか。」
- ⑤ 与吉は千びきに「一ぴきで生きていけると言つていたが、どうして弟子の太一は海の命は変わらなかつたのか。」
- ⑥ 海の命は変わらなかつたのに、どうして瀬の主は殺さなかつたのか。
- ⑦ 「父さんに会えた」と笑顔を作れたのに、どうして太一はそのことをだれにも話さずにいたのか。
- ⑧ 話してもいいはずなのに、どうしてクエを殺さなかつたことを人に話さなかつたのか。
- ⑨ 太一の父も漁師だつたのに、どうして太一は自分の子どもたちにクエを見つけたことを言わなかつたのか。